

教育シンポジウム

3. 泌尿器科におけるクリクラの現状

石井 徳 味

近畿大学医学部泌尿器科学教室

当科のクリクラの実習期間は1週間です。教育目標は泌尿器科疾患全般における診断、治療についての基礎知識を習得することですが、この短期間にすべての疾患について網羅することは困難であるため、実習方法としては学生1人に1症例を割り当て、患者の主治医とともにマンツーマンで1週間行動する形式になっています。担当症例はこの週に手術を受けますので、手術日には実際にスタッフの一員として手術に参加します。1週間のうち3日間(月・水・金)手術日がありますので、自分の担当症例以外の手術も自由に見学できます。手術日以外は病棟実習、外来実習、外来検査見学、前立腺生検見学と実習内容は多岐に富んでおります。また専門的な泌尿器科的知識を習得してもらうために、当科の研究テーマである尿路腫瘍、尿路結石、腎移植についての講義も実習期間内に組み込んでいます。週末の金曜日には教授回診があり、担当症例のプレゼンテーションをベッドサイドで行ってもらいます。土曜日は総括としてレポート提出ならびに

担当症例についての診断、治療法について検討会を行います。レポートに関しては担当症例の疾患について単にまとめるものではなく、一つのカルテと見なして実習期間内の経過をまとめてもらうように指導しています。当教室では年に1回、クリクラに関して医局員全員にて検討会をもち、スケジュールならびに実習内容に関して吟味していますが、問題点は多く今後も検討が必要です。現在の主な問題点は下記の如くです。

1. 担当症例の振り分けは教員側が行うため、学生自身が興味を持つ症例は担当できないことがある。今後は学生の希望も取り入れ症例を決める試みも必要である。
 2. 手術日では手術時間が長く、また手術件数も多いため、学生の拘束時間が長くなる。
 3. 学会期間中に担当教員が不足して十分な実習内容が実践できない。
- 上記問題点に関しては今後も当教室として改善してゆく方針です。

4. 教育シンポジウムを終えて

上 榎 潔

近畿大学医学部 6学年

私は2008年5月26日～6月27日の5週間 Akron General Medical Center の General surgery で臨床実習を行ってきました。平成20年12月13日、第65回近畿大学医学会学術講演会に招いていただき、Akron General Medical Center でのクラークシップを日本と比較し、発表させていただきました。その内容を簡潔ではありますが書かせていただきます。

私が実習させて頂いた実習の内容の詳細については以前近畿大学医学雑誌に書かせていただいたのでここでは省略させていただきます。

私が感じたことは、まず、学生の行える手技、行動はそんなに変わらないということです。

しかし実習中の教員からの質問内容は日本では疾患の深い理解を問うのに対して、米国は症候→鑑別疾患と、重要視している点が異なっているようにも

感じました。

日本の実習は見学、勉強という要素が強い気がしましたが、米国の実習はチームの一員として行動し、学ぶという要素が強かったように感じました。

また、患者さんのもとへ足を運び、理学的所見も自分で可能な限り取っていたということも印象的でした。しかし米国では学生が、患者さんの理学的所見をとるのはごく自然なことであるが、日本では可能なのかという疑問もありました。

以上の事を踏まえ米国式のクラークシップの導入を提案させていただいたのですが、実際臨床の先生方の意見としては社会的背景の面等、困難な点が多々あるとの意見を頂きました。やはり私たちの描く理想のクラークシップは達成し辛く感じましたが、少しづつでも良い方向に変化させていく事が重要であるとあらためて思いました。